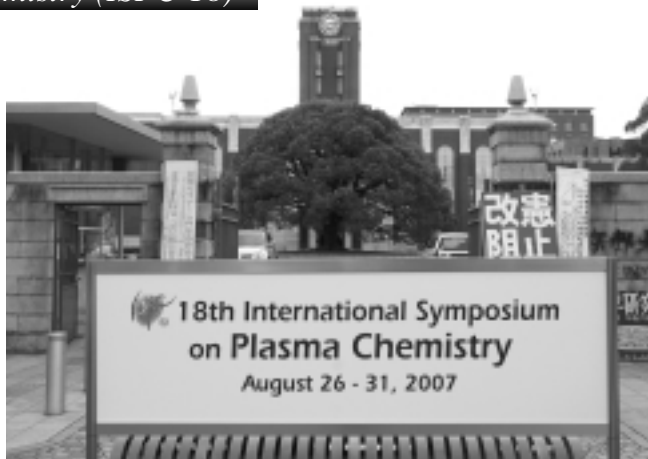


18th International Symposium on Plasma Chemistry (ISPC-18)

第18回 プラズマ化学 国際シンポジウム 報告

プラズマが関与する化学ならびにプラズマプロセッシングを対象とする第18回プラズマ化学国際シンポジウム (ISPC-18) が、去る8月26日から31日までの6日間、京都大学吉田キャンパスの百周年時計台記念館を中心に開催されました。本国際シンポジウムは隔年で開催されており、1987年の東京 (ISPC-8) 以来20年ぶり2回目の日本での開催となりました。世界40カ国から671名もの参加者があり、前回のカナダでの開催より1割増えました。講演件数も700以上もあり、連日、活発な意見交換が行われました。

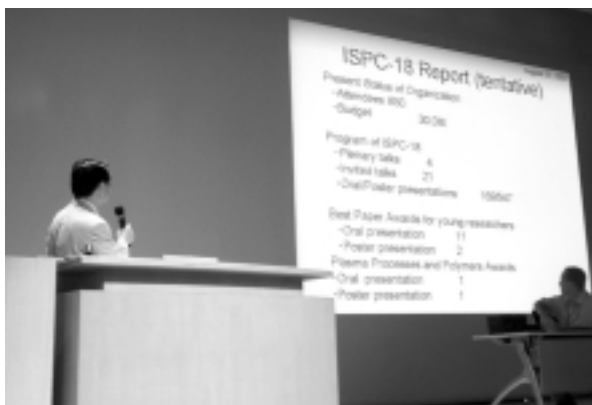
当社は、ポスターセッションで“Properties of SiCN Films Prepared by Cathode Coupled P-CVD Using Liquid Source Material”と“Design of New ICP System and Improvement of Etching Uniformity”の2件を発表し、開始定刻前から終了予定時間後まで多くの来場者と当社開発部員との間で質疑応答が行われました。ポスターセッション会場内の併設展示会にも出展し、当社の紹介を行いました。また、前オプトフィルムズ研究所所長のWydeven氏はオーラルセッションで座長を務めました。運営面でも全面的に協力させて頂き、受付で参加者にお渡しするカンファレンスバッ



会場となった京都大学吉田キャンパス (正面奥が百周年時計台記念館)

グの提供や受付のお手伝い、ご希望の方に当社の生産技術研究棟をご見学頂くテクニカルツアーの受け入れなどを行いました。特に、京都の布かばんの老舗である一澤帆布製のISPC-18のロゴを入れたカンファレンスバッグはデザインと機能性が非常に好評で、多くの参加者からお褒めの言葉を頂きました。

国際組織委員長を務められた京都大学大学院工学研究科の橘教授からは、「20年ぶりの日本、しかも京都での開催ということで思い入れはことのほか大きかったです。参加者、講演件数ともに今までのISPCで最も多く、何よりも講演内容がサイエンティフィックで質が高かったとの評価を頂きました。また、プラズマ化学のバイオや環境など新しい分野への展開の兆しが出てきました。参加者からよかったという多くのメッセージを頂きました。成功して非常に満足です。」とのコメントとともに運営に対する協力のお礼のお言葉を頂戴しました。



国際組織委員長の橘教授



左手前より橘教授、奥へ2名おいて当社社長辻、Wydeven氏

※当社がポスターセッションで発表しました“Properties of SiCN Films Prepared by Cathode Coupled P-CVD Using Liquid Source Material”は、本サムコナウの6ページのテクニカルレポートに掲載しております。